

第一生命経済研究所のホームページご紹介

アドレス：<http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/top.cgi>（「第一生命経済研究所」で検索可能）
10月上旬までに上記ホームページに登場したレポートテーマの一例をご紹介します。このほか数多くの詳細な経済分析レポートが掲載されていますので、経済研レポートと合わせてご活用ください。

～新政権の政策が家計に与える影響、日本経済回復の足取りを分析します。

- 2009/10/7 「経常収支の先行き見通し～当面改善持続、2010年後半には改善ペースは鈍化～」
2009/9/17 「子ども手当を含む一連の施策が世帯所得に与える影響 ～共働き世帯に有利、同一世帯構成では低所得層に有利となる～」
2009/9/16 「民間調査機関の経済見通し ～政権交代などによって、2009年度は下方修正、2010年度は上方修正～」

掲載カテゴリ：日本経済分析チームによる「日本経済の羅針盤」

～世界の金融市場動向の読み方を毎週お伝えします。

- 2009/10/13 「Market Watching Weekly Market Report」(毎週月曜日配信)

掲載カテゴリ：畠峰義清の「マーケットウォッチング」

～新たな経済政策の効果と財政負担、家計の社会保険料負担などについて分析しています。

- 2009/9/24 「厳しくなる財政収支の辻褄 ～44兆円の国債発行でさえ余力は大きくない～」
2009/9/15 「可処分所得は負担増から逃げられない ～低下する家計貯蓄率の背景～」

掲載カテゴリ：熊野英生の「金融市場の謎を解く」

～世界各国の景気底入れとその後の環境を分析します。

- 2009/10/8 「豪州経済事情：予想以上に早く訪れた「出口」」
2009/9/29 「ユーロ圏 2009、2010年経済見通し ～景気は緩やかに回復～」
2009/9/24 「インド経済事情：足元は回復が続くも、勢いに不透明感 ～内外需の回復は予想を下回るが、先行きの景気は緩やかな回復が続く」

掲載カテゴリ：桂畑誠治の「米国経済を探る」、「アジア・新興諸国経済」

編集後記

このところ新聞記事で目につく日本経済の話題がいくつかある。まず身の回りでの値下げが多いこと。また産業界では国内の事業統合・再編、海外事業では中国などアジア市場への進出の話題が多い。値下げは消費者に恩恵があるし、企業の事業強化や新たな市場開拓は、それ自体歓迎すべきことだ。不安を感じるとすれば、これら一連の動きが、私たちの雇用や賃金を通じて生活の向上にどのように結びついていくのか、その関連が見えにくいことだ。海外の力強い成長を取り込むなり、生産性を高めて国内に成長の源を育てるなり、成長戦略が大切なことは分かっているが、景気につながる具体的な道筋は必ずしもはっきりしていない。エコノミストの多くのレポートは、これらを実現する方策を模索するものであったと言える。

政権が代わり、政策は趣を変えた。特徴を挙げるなら、家計への働きかけに重点を置いたことであろう。だが、国内経済が求めるものや国と家計の懐具合は変わらない。形式的な論議にとどまらず、これまでと違うアプローチで国内経済を前向きに回転させることをしっかりと目指すことで、新たな戦略への信頼は生まれる。まだ新政権の取り組みが日本経済の上にどのような像を結ぶのか、はっきりしないことが多い。紙面を飾る記事が本当に少しずつ明るくなっていくのか、注意深く見つめたい。

(H. U)